

春蠶掃立の諸準備 (四)

上簇取扱に解舒の糸量

蠶抜きの必要は前にも述べたが蠶は上簇して蠶繭を始める前に尿を排せし又蠶繭中に多量の水分を發散させるので上簇後三日間に体重の四割余を減すると唱へられ其の減量で計算すると十繭の間に二萬五千頭を上簇させたとして二斗五升余の水分が室内に撒布されることになる、であるから蠶が蠶繭を始めたならば直ちに蠶ぬきを行ふことと之れを時間毎に二回位(大体廿時間迄のあいだにやるのがよい)蠶ぬきは必ず蠶繭終了後では殆んど効果がなから蠶繭に同時に實行することの人情の切なるとき流れ出にせねばならぬ、それから又收繭は充分化蛹してからにする未化蛹もいけず化蛹後も余り早くて蛹の皮膚から汚液が出るやうでは解舒を甚だしく悪くする、愈よ繭かきになつた撰繭は出来だけ丁寧に行ひ上中下及び同功繭を區別して僅かばかりだからと中繭や同功繭を混入することは上繭の品位を本質以下に見劣りさせるから結局損と云ふことになつて少し位の屑繭をせよ、奉職地向はれて了つた方の上繭の品位を向上させが、▲悉がなき歸着の玉づる方がはるかに利益であるがなせに運れることか待た石城地方では養蚕組合が既に出來てゐるのだから同組なる思へは一通りでない去合の同志によつて上簇改良八日半谷氏宅にて語らうな



組合と云ふ様なものを組織かに▲あじきなし、まてど訓導)うるはしの、かちにし此の改善に努め販賣に當便りは今日もさす、きくよすがりて漕ぐものを、なごつては不正を事とする仲買り遊しまつまいの空の一迫ひ行かん弱き母かなは商の如きものに頼らず直接歌これに對してかたわらな共に美しきたしなみとこそ製原家の手に移る販賣利用る佐藤夫人の令妹(高坂校思ふ。(関子)

和歌は日本の國語の美しき誇りとされ強きにやさしきに善きにつれ

悪しきにつれ▲文字通りではない文字以外の味を添へて人の心を感動せしむるも自然の詠歌、殊に女性にせねばならぬ、それから又收繭は充分化蛹してからにする未化蛹もいけず化蛹後も余り早くて蛹の皮膚から汚液が出るやうでは解舒を甚だしく悪くする、愈よ繭かきになつた撰繭は出来だけ丁寧に行ひ上中下及び同功繭を區別して僅かばかりだからと中繭や同功繭を混入することは上繭の品位を本質以下に見劣りさせるから結局損と云ふことになつて少し位の屑繭をせよ、奉職地向はれて了つた方の上繭の品位を向上させが、▲悉がなき歸着の玉づる方がはるかに利益であるがなせに運れることか待た石城地方では養蚕組合が既に出來てゐるのだから同組なる思へは一通りでない去合の同志によつて上簇改良八日半谷氏宅にて語らうな

諸毒下シの大妙藥
安流丸
平町五丁目角
特約山野邊藥局

入院應需 自炊の便あり
明雲堂眼科醫院
平驛前 電話六六九番

貸切自動車の
用命は 昭和
高級車で 昭和
乗心地よ タクシーへ
平驛前
電話 三四三番

安價に 迅速に
親切に
遠藤活版所
電話七四三番

櫻で自慢の
平町松ヶ岡公園
三光館
表松ヶ岡公園
表坂の入口

ライ寫
ト館
平才樋小路
電話八四七番

金網和洋 金鉄洋
金屋
價之低く 質之高く
良品廉賣は 弊店のモットー
金屋商店
平町五丁目 電話九三二番

最新流行行
會津桐材
自製専門
小松はき物店
平町二丁目
電話九一〇番

よろちございますか
うちりますか
中島寫眞館
平町字田町

帽子 シヤツ ネクタイ 子供服
の春陽 は意用御
ハヤルツ
平町四丁目電話一四〇番

平田町 電話三五三
サロン
いつも生ビールが冷たいまま
キレイな座席で氣もちよく
フランス料理の献立